



工学部 都市工学科
4年・前主将
矢崎大地君

工学部 都市工学科
1年・学生コーチ
秋山瑞樹君

周囲のサポートがあったから頑張れた！

「当たり前」の ありがたさを実感

ラグビー部



前期シーズンvs東京農業大学戦。トライを目指してGO! ラインアウトのボールを高々と持ち上げられた選手がキャッチして、空中戦を制します。

近隣の大学チームが 合同練習の声をかけてくれた

都市大ラグビー部は、前頁でご紹介したアメリカンフットボール部同様に、多摩川沿いのグラウンド一帯が冠水してしまったことで、練習場所を失ってしまいました。「川から流れ込んできたと見られる土砂などによって、ゴールポストは根元から折れて流されてしまい、グラウンド全体には雑草や流木が山のように積み上げられ、これまでに見たことのないような、信じられない光景が広がっていました」(矢崎君)。「次の試合が控えているリーグ戦の真っ只中でしたので、少しでも練習ができるグラウンドを確保しようと、部員が手分けをして近隣施設へ使用許可の問い合わせをしたり、公式ツイッターで練習場の提供を呼びかけました」(秋山君)。

ラグビー部のOBやOGからの情報提供をはじめ、ツイッター上の呼びかけに、思いのほかたくさんの反応があり、「明



学年問わず仲が良く、シーズンの締めくくりの納会でも楽しく食事。納会では、部長の渡辺一朗先生や顧問の榎原徹也先生、OB会長からお言葉をいただきました。

治学院大学や玉川大学、成蹊大学など、近隣の多くの大学が手を挙げてくれて、合同練習をさせて頂きました。試合前のサインの確認や動きの確認、コールなど、より実戦に近い状態で練習ができる機会を頂いたことに本当に感謝しています」(矢崎君)。

とはいえ練習場やスケジュールは不規則になってしまい、それが部員たちの日常生活に大きな影響を与えているそうです。「週ごとに練習の時間も場所も変わるので、授業やアルバイトとのスケジュールのやりくりが大変です。練習場によっては交通費もバカになりませんし、普段当たり前のようにグラウンドで練習できたありがたさを改めて実感しています」(秋山君)。「ただ今回の被災で日々の練習の質や効率を見直すことになり、部の結束力も今まで以上に高まった気もしています。僕はもう引退ですが、これをバネにさらなる飛躍を遂げてもらいたいですね」(矢崎君)。



全国地区大会関東1区予選のvs東京外国語大学。前回、先輩はこの対戦相手に負けて引退しています。今季は見事勝利! 試合後に監督の榎原先生からのお話を頂きました。